

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料＝ラガルド総裁記者会見に要注意

2020年9月7日

ユーロドルは1日の海外市場で心理的な節目とされた1.2000を一時上回る動きを見せました。2018年5月2日以来の高値圏です。大台手前で上値を抑えられる場面が一時見られました。豪ドルが対ドルで2年1か月ぶりの高値を付けるなど、ドル全面安の基調が続く中でユーロドルも1.20前後の売りをこなし1.2011を付ける展開となりました。

もっとも、すぐに1.19台に値を戻すと、そのすぐ後に発表された米ISM製造業景気指数の好結果を受けたドル買いなどもあって1.17台を付けるところまでいったん調整が入っています。

少し長い期間でのユーロドルの動きを振り返ってみましょう。主要通貨が軒並み落ち着いた取引となった2019年。ユーロドルは年初の1.15台後半から秋にかけて1.08台を付けるところまでユーロ売りが進んだものの年末には1.12台に戻しており、他の通貨ペア同様に一方向のトレンドが続かずレンジ取引に終始しました。今年に入ってドル買いの動きが一時広がり1.08割れを付けたところから、新型コロナウイルスの感染拡大による荒れた相場が始まりました。3月前半に1.15手前まで上昇すると、世界的なリスク拡大での流動性確保からのドル買いが強まる中で3月後半には1.0630前後までと、わずかに数週間で2019年のレンジをはるかに超えるレベルでの振幅を見せました。その後は少し値動きが落ち着き、5月半ばにかけて1.08前後でのみみ合いとなりましたが、そこから一転して直近まで続くユーロ高のトレンドが強まります。

6月前半に1.14台を付けると、少し調整が入りましたが、7月に入ってユーロ高が加速。1.12ちょうど前後から7月末には1.18台を付けます。心理的な節目となった1.20を前に8月は下値もしっかりも上値は1.19台で抑えられ、ユーロ上昇の勢いがそがれましたが、今月1日ついに1.20台を付けることに成功した形です。

ただ、こうした急激なユーロ高ドル安に対して、ECB(欧州中央銀行)も警戒感を示しています。

フィリップ・レーンECB専務理事兼チーフエコノミストは今月1日に、ユーロドル相場は金融政策に大きくかかわる重要な問題と発言。ユーロ高の進行をけん制しました。

3日にもECB高官が、ユーロ高が継続すればユーロ圏の輸出が抑制され、国内物価が押し下げられ、さらなる金融刺激策を導入する必要性に迫られると、ユーロ高をより強くけん制する発言を行っています。

こうした状況の中、10日にECB理事会が開催されます。前回7月の理事会同様に主要政策金利など3つの政策金利の現状維持が見込まれています。また、新型コロナウイルス対策での量的緩和策として実施されているPEPP(パンデミック緊急購入プログラム)についても、6月の会合で増額・延長されており、こちらも現状維持が見込まれています。

政策変更の可能性が低いと、注目は理事会後のラガルド総裁の会見となりそうです。

レーン専務理事はチーフエコノミストでもあり、経済の見通しについてECB全体に影響を与える立場だけに、けん制発言はECB内の意向を反映したものと考えられています。そのため、ラガルド総裁も会見の中でECBトップとして同様の警戒感を示している可能性が十分にあります。

また、ユーロ高の物価の押し下げ効果などをうけてインフレ見通しについてより慎重な姿勢を示してくる可能性があります。実際直近8月分のユーロ圏消費者物価指数(HICP)は概算値ながら前年比-0.2%と2016年5月以来のマイナス圏に落ち込みました。前回は+0.4%、今回は原油価格の下落もあってある程度の鈍化が見込まれていましたが事前予想値は+0.2%と小幅ながらプラス圏を維持するとみられていました。また、ECBが重要視しているとされるエネルギー、食品、酒、たばこを除くコア部分に関しては+0.4%と、全体の押し下げ要因となった原油価格低下の影響が省かれる分プラス圏を維持していますが、前回の+1.2%から0.8%ポイントの大幅な低下となっており、厳しい状況が見られました。

国別にみるとドイツが-0.1%とマイナス圏に沈み、フランスは+0.2%となんとかプラス圏を維持も、前回からは0.7%ポイントの大幅な低下。イタリアに至っては前回から一気に1.3%ポイントも低下しての-0.5%となっています。

こうした状況を鑑みると、ECB理事会後の会見でのインフレ見通しの下方修正と、その原因となりうるユーロ高へのけん制発言は十分にありそうです。この場合ユーロは対ドル、対円で大きく下げる可能性がありますので要注意です。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。